

2022年1月22日 日向灘の地震

一 近地強震波形による震源過程解析（暫定）一

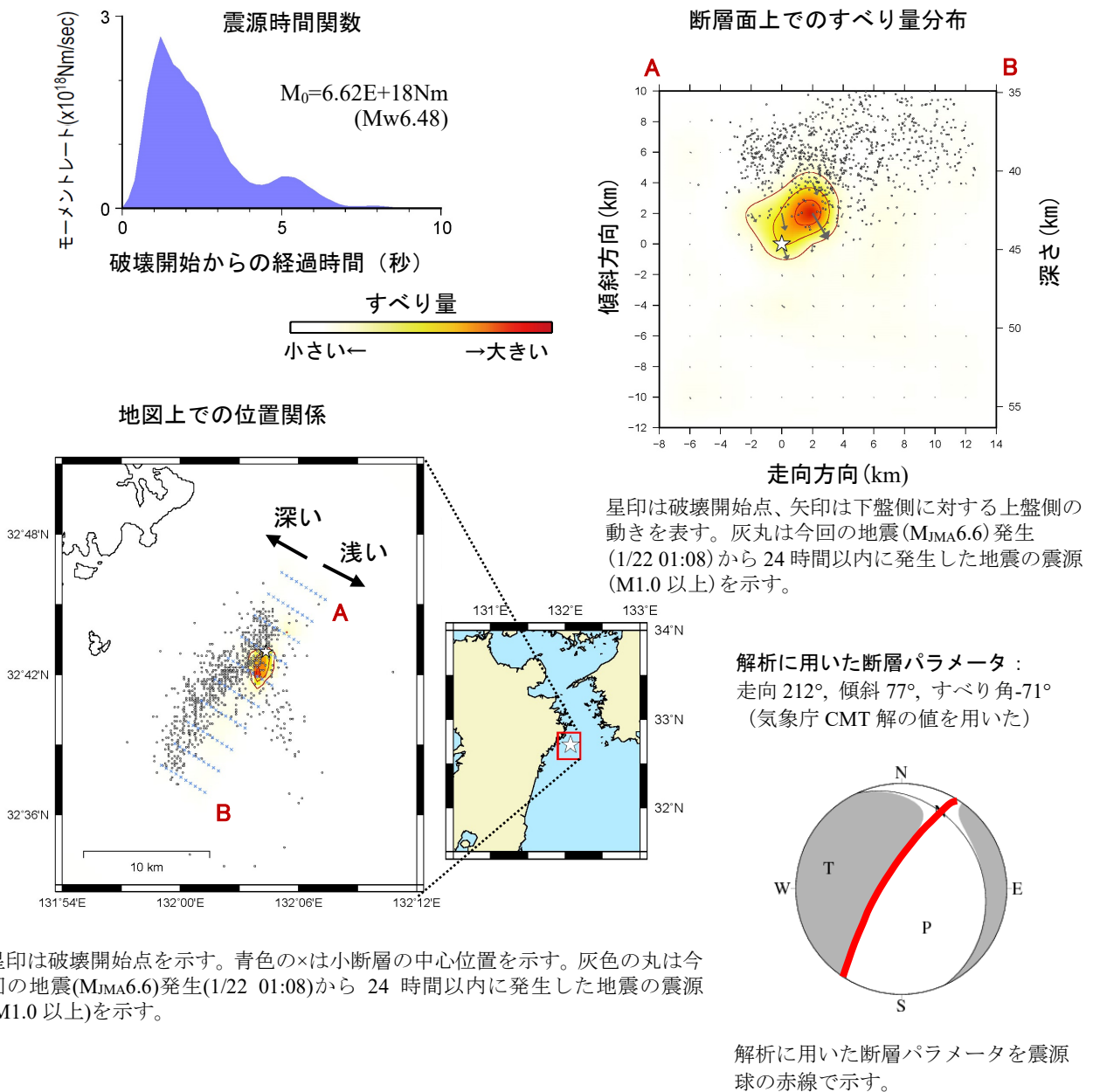
2022年01月22日01時08分（日本時間）に日向灘で発生した地震(M_{JMA}6.6)について、国立研究開発法人防災科学技術研究所の強震観測網（K-net、KiK-net）の近地強震波形記録を用いた震源過程解析を行った。

破壊開始点は、気象庁による暫定震源の位置（32° 42.9′ N、132° 04.3′ E、深さ45 km）とした。断層面は、気象庁 CMT 解の2枚の節面のうち、高角に傾斜した節面（走向212°、傾斜77°、すべり角-71°）を仮定して解析した。最大破壊伝播速度は3.3 km/sとした。理論波形の計算には Koketsu et al. (2012)の結果から設定した地下構造モデルを用いた。

主な結果は以下のとおり（この結果は暫定であり、今後更新することがある）。

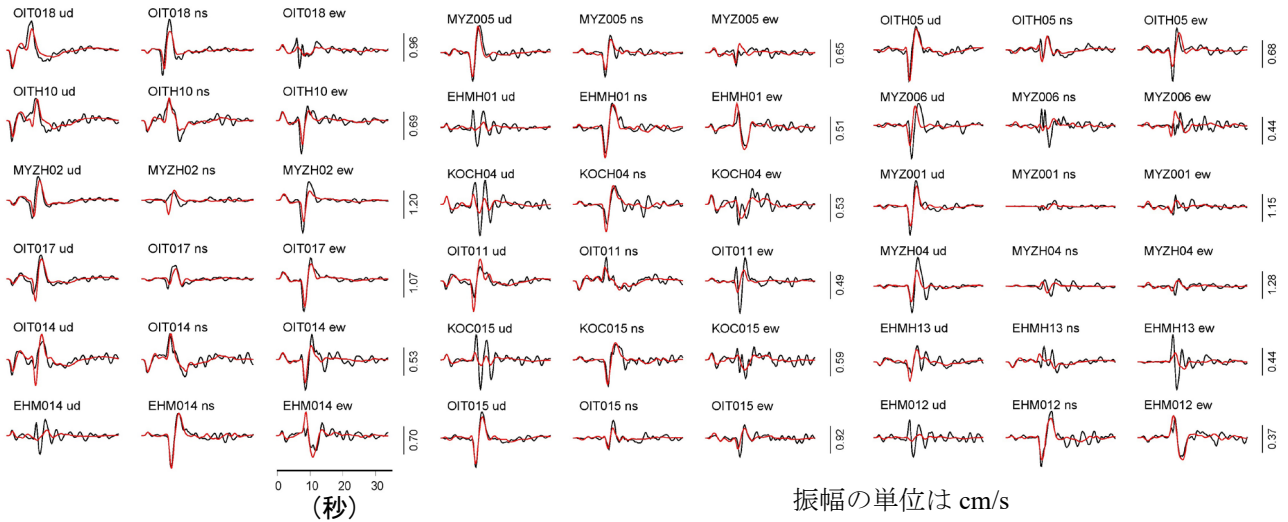
- ・主な破壊領域は走向方向に約6 km、傾斜方向に約6 kmであった。
- ・主なすべりは破壊開始点から南側のやや浅い領域に広がり、最大すべり量は3.6 mであった（周辺の構造から剛性率を71GPaとして計算）。
- ・主な破壊継続時間は約5秒であった。
- ・モーメントマグニチュード（M_w）は6.5であった。

結果の見方は、https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/world/about_srcproc.html を参照。

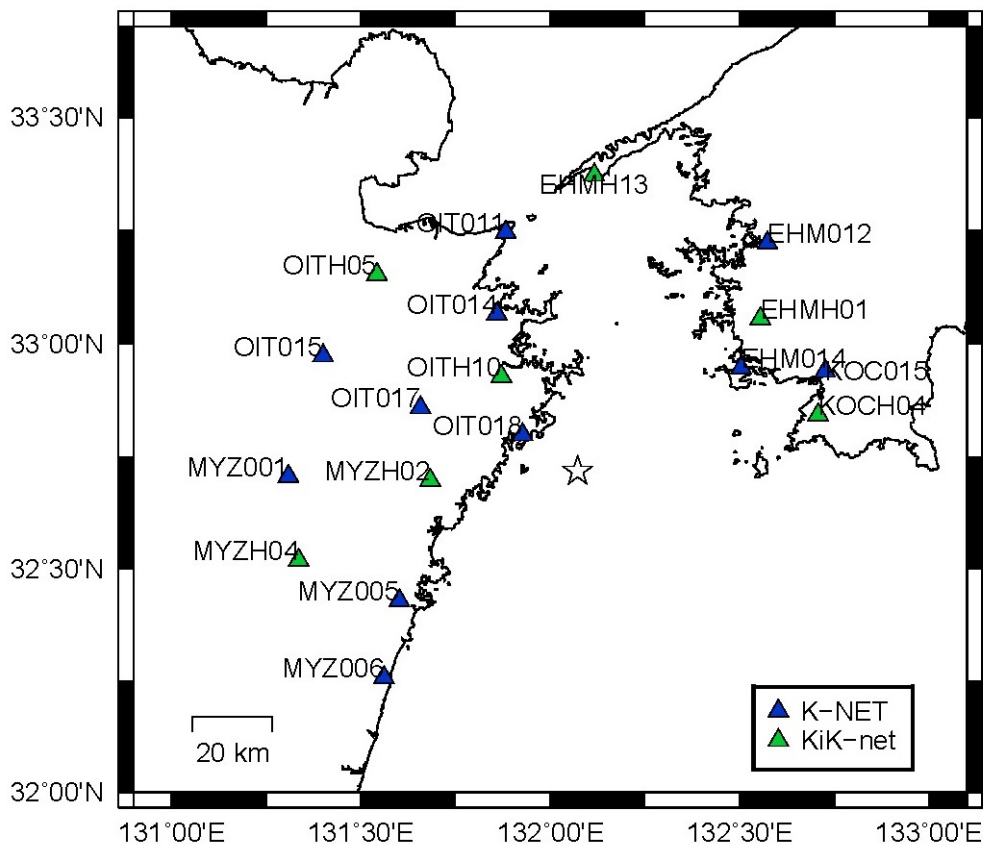


星印は破壊開始点を示す。青色の×は小断層の中心位置を示す。灰色の丸は今回の地震(M_{JMA}6.6)発生(1/22 01:08)から24時間以内に発生した地震の震源(M1.0以上)を示す。

観測波形（黒：0.05Hz-0.2Hz）と理論波形（赤）の比較



観測点分布



謝辞 国立研究開発法人防災科学技術研究所の強震観測網（K-net、KiK-net）を使用しました。

参考文献

Koketsu, K., H. Miyake and H. Suzuki, Japan Integrated Velocity Structure Model Version 1, paper no. 1773. Paper Presented at the 15th World Conference on Earthquake Engineering, International Association for Earthquake Engineering, Lisbon, 24-28 Sept. 2012.

作成日：2022/02/08

気象庁作成